

ポスト・コロナに向けて 次期当番校ご挨拶

大正大学附属図書館長

稲井 達也

1. はじめに

来年度の第84回（2023年度）私立大学図書館協会総会・研究大会の当番校である大正大学附属図書館長の稲井達也と申します。今年度の開催は、コロナ禍の影響により全参加大学による対面での参加ができない状況でありましたため、書面にてご挨拶を申し上げます。

まずは本年度の大会開催校としてご尽力下さいました追手門学院大学図書館ならびに協会の関係各位に心より感謝申し上げます。長期にわたる感染症の拡大は、大会運営について多くのご苦勞を強いたものとお推察申し上げます。コロナ禍の中でも大会運営を実現させたことは、今後の開催におおいに活かされるものと思えます。

2. 第84回（2023年度）の概要

来年度は現時点で、対面型とオンライン型の同時開催、日程は8月31日（木）に総会、9月1日（金）研究大会と言う案をご提示しております。また予定会場は図書館と同じ建物内にあるラーニングコモンズです。大正大学は東京都豊島区西巢鴨にございますが、令和2年度には文部科学省の大学教育再生戦略推進費「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択され、新しい学びに取り組んでいます。

本学附属図書館はキャンパスの中心地に総合学修支援施設として計画・建築され、2020年11月、コロナ禍の中でグランド・オープン致しました。大学の「知の拠点」として、学生が集い学ぶ場となっております。附属図書館ではオンラインによる独自講座「学びのコミュニティ」をはじめ、さまざまな取り組みを進めて参りました。高大連携にも図書館として積極的に取り組んでおります。また、豊島区をはじめ、前橋文学館など、さまざまな機関との連携も進めているところです。感染が収束しましたら、地域みなさまに公開し、学生と地域のひとびと、大人と子供がともに学び合い、ともに集い合う「サードプレイス」として機能するように取り組んで参りたいと考えております。

みなさまには、ぜひ対面、またはオンラインにてご参加ください。

3. 大会テーマ

今日、私たちの社会は、AI社会や内閣府が提示する Society5.0 の社会像に急速に接近しつつあります。コロナ禍は価値観の多様化と変革を加速させました。

現在の大学には、実社会・実生活を見通して、学生一人ひとりに、自ら課題を発見し、自ら主体的に課題を解決できるような資質・能力を育成することが求められています。これを受けて、大学図書館には、学術研究はもとより、前例にとらわれることなく、新たな学修・研究支援の体制を確立することが期待されています。

コロナ禍のなかで大学図書館が積み重ねてきたさまざまな実践知を確認・共有するとともに、社会の価値観の転換にどのように対応していくべきなのか。

本大会は、大学の図書館人として、既存の価値観にとらわれることなく、ポスト・コロナを見通した「新たな大学図書館像」を探るための機会としたいと思います。

4. おわりに

今年度の大会開催に尽力されました全ての関係者の皆様に重ねて感謝申し上げますと共に、次年度の開催へのご参加を心よりお願いし、ご挨拶とさせていただきます。